

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃、機関銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に、リオデジャネイロ市及び郊外のスラム街（ファヴェーラ）では麻薬密売組織間の抗争が継続しているほか、治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生し、流れ弾による被害者が発生している。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 州政府は凶悪犯罪対策に注力しており、殺人、強盗の発生数は過去5年間ほぼ一貫して減少傾向であったが、今年に入って増加傾向に転じている。

リオ市における人口当たりの犯罪発生率を日本と比較すると、殺人が約23倍、強盗は約300倍である。窃盗、詐欺、傷害等の罪種は引き続き増加傾向である。

リオ州公安研究所による、本年7月の犯罪統計は以下のとおり。（括弧内は前年同月比の増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	310 (+8)	80 (-10)
強盗	10421 (+1949)	5016 (+496)
（うち路上強盗）	4982 (+810)	2373 (+128)
窃盗	15967 (+1349)	9319 (+1249)
強姦	486 (-52)	153 (-27)

(2) 邦人被害事案

(ア) 7月22日（月）夜、リオ市内で発生したデモにおいて、取材中の邦人報道関係者が警察官に警棒で頭部を殴打された。

(イ) 8月24日（土）20時頃、短期滞在者がセントロ地区ペドロI世通りを夕食のため同行者6名と歩いていたところ、数人の黒人につきまとわれ、肩に掛けていたバッグを奪い取られた。

(ウ) 9月15日（日）正午頃、観光客がセントロ地区の9月7日通りを単身で徒歩観光していたところ、黒人少年グループにアイスピックを示して脅され、所持していた鞆を強奪された。

(エ) 9月28日（土）午後3時頃、短期滞在者がセントロ地区カンデラリア教会付近路上で写真を撮影していたところ、背後から黒人2人組が飛びかかり、カメラ等を強奪された。

(3) 邦人以外の被害事案

(ア) 9月20日（金）午後1時頃、フラメンゴ地区の宝くじ販売所において宝くじ購入中に拳銃使用の強盗が発生。逃走時に犯人が発砲したが、負傷者はなか

った。

(イ) スラム街住人男性の失踪事件を機に、リオデジャネイロにおける失踪者の多発が話題となっている。

公安局の調査によると、リオデジャネイロ州では1日平均15人が失踪している。

現地報道は、失踪者の多くは殺害されており、多くの事件で警察が関与している可能性が高いとして、警察を糾弾している。

### 3. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

### 4. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

本年7月中にリオ州内で短時間誘拐14件、脅迫6298件が発生している。

### 5. デモ情勢

6月以降、セントロ地区リオブランコ大通り周辺、ラランジェイラス地区ピニェイロマシャド通り周辺を中心に市内各地で大規模デモが続発し、一部参加者が暴徒化してバス停、金融機関等が多数破壊されたほか、警官隊との衝突で多数の負傷者が出た。

7月以降は、大規模デモは収束したものの、個別の要求を掲げる小規模デモが引き続き発生しており、デモに便乗してBlack Blocsなどの無政府主義団体が破壊活動を行っている。

9月以降は教職員組合による賃上げ要求デモが再三にわたって行われており、これらのデモにも前述の無政府主義団体が参入して破壊活動を行い、多数の逮捕者が出ているが、逮捕者の大半は間もなく釈放されるなど、治安当局の対処は後手に回っており、収束の目処は立っていない。

### 6. 日本企業の安全に関わる諸問題

特になし。

以上